

朝鮮における『天地八陽神呪經』の位相

——朝鮮時代から現在まで

佐藤 厚

一 問題の所在

韓國で盲僧、讀經師、巫女が厄除けや家内安全祈禱の儀式に用いる經典を巫經という。本稿では巫經の中でも佛教系として代表的な『天地八陽神呪經』（以下『八陽經』）を取り上げ、朝鮮時代から現代までの位相を明らかにする。

そもそも『八陽經』は、唐代ころに成立したとされる中國成立經典で、家屋の新築や引越、葬祭や結婚の日取りについて、當時の人々が恐れていた土地神や方位

神などよりも『八陽經』讀誦の威力が強力であることを説く^①。これは東アジアから中央アジアにかけて広く流布し、とりわけ朝鮮半島では邪を祓う經典として重視され、現在の韓國においても佛教信者が讀誦している代表的な經典の一つであり、たとえば新居に引越す際に土地を清めるために僧侶を呼んで唱えたり、C Dをかけたたりするという^②。日本でいえば神主を呼んで行う地鎮祭にあたるようなものである。このように人々の暮らしに身近な經典である『八陽經』の研究は、韓國人の宗教心を探るうえで重要なものであるが、意外にも當の韓國では本

格的な研究はないという。韓國人研究者の一般的な考え方によれば、韓國の佛教研究者の間で研究対象となる經典とは『法華經』や『華嚴經』など、「きちんとした」經典であり、『八陽經』はそれに比べるとレベル、価値が低い經典とみなされ、よって研究の対象外になるのだという。

そうした中、朝鮮における『八陽經』を最初に本格的に研究した人物は日本の増尾伸一郎である。増尾はまず日本での『八陽經』受容から入り、次いで朝鮮における受容の研究に進んだ。そして『天地八陽神呪經』の朝鮮刊本と刊記からみる受容相の研究、さらに『八陽經』と竝んで讀誦經典として重視される『太歲經』の版本と流通の状況について検討するなど、思想的な研究を深めたのである。^③ 筆者は、これらの業績に學びつつ、朝鮮時代の『八陽經』刊行の特徴、増尾とは異なる方法で『八陽經』受容のあり方を研究した。^④ 本稿は、筆者の過去の論文を土臺として、それに新たな知見を加え、朝鮮における『八陽經』の位相を明らかにする。

二 『八陽經』と韓國の民間信仰經典

(一) 『八陽經』テキスト

『八陽經』はアジア地域の廣範圍に流布し、言語も漢文、チベット語、ウイグル語など様々な翻譯と刊本がある。『八陽經』を總合的に研究した小田壽典は、『八陽經』の一二種類のテキスト（①日本古寫本、②敦煌B本、③チベット音寫本、④トルコ語譯本、⑤チベット舊本、⑥チベット新本、⑦敦煌A類本、⑧中國（靜古）本、⑨モンゴル語譯本、⑩朝鮮本、⑪越南本、⑫續藏本）を對照し、語句の異同から三つのグループに分ける。第一のグループは②、③、④。第二のグループは⑤、⑥、⑦。第三のグループは⑧から⑫であり、朝鮮本もここに入る。^⑤ さらに小田は朝鮮本がトルファン出土漢語文獻に一致することを指摘し、「トルファン地方がウイグル時代に遼朝と頻繁に交流があったことをみれば、朝鮮本の源流が遼朝佛教にあることを推測させる」と述べ、朝鮮本の原形が遼代佛教のテキストである可能性を示唆する。すると本

經の朝鮮半島傳來は一一世紀ないし一二世紀と考えられようか。當時、朝鮮半島は高麗時代である。これは現在、他の資料で裏附けるものはないが興味深い。

(二)『八陽經』概説

『八陽經』は現在、大正新修大藏經八五卷に收録されている。まずその内容を略述する。括弧内は大正藏經の頁段である。

- ① (一四三二b) このように聞いた。ある時、佛は毘耶達摩城の寥廓宅におり、四衆が取り圍んでいた。
- ② 會座にいた無礙菩薩が質問する。衆生には、識者が少なく、無識者が多い、念佛者が少なく不念佛者が多い、など優れた者は少なく愚かな者は多い。そして様々な苦しみがあるが、それは邪倒の信を信じているからである。佛よ、衆生のために正見の法を説きたまえ。
- ③ (一四三二c) 佛は言った。無礙菩薩よ。あなたのために天地八陽神呪經を説く。これは過去、現在、未

來の佛が説くものである。天地の間で人間が最も優れている。人とは眞であり正である。心に虚妄は無く、身には正眞を行ずる。「人という文字を分解すると」左の「ノ」を眞とし、右の「へ」を正とする。

④ 無礙菩薩よ。衆生は人身を得ても惡業を作り死後には種々の罪を受ける。しかし、もしこの經典を聞き、信受して逆らわなければ苦海から解脱し、善神の加護を受け、壽命が延びて夭折することはない。それは信の力である。その他、書寫、受持、讀誦すれば非常な効果があり壽命が終つた後に成佛する。

⑤ 佛は無礙菩薩に告げる。もし衆生が邪倒の信をしていると、邪魔外道、魍魎魍魎などに苦しめられる。それに對して善知識にあつてこの經を三回讀むと惡鬼などは消滅する。もし衆生が淫慾などが多い場合、この經を三回讀むと消滅する。

⑥ もし善男子、善女人が、有爲の法を興そうとしてまずこの經を三回讀むと、家などの建物を建てようとしても(一四三三a)、日遊月殺、大將軍、太歲、黃幡豹

尾、五土地神、青龍白虎朱雀玄武、六甲禁諱、十二諸神、土府伏龍などの〔民間信仰や道教での神々〕や一切の鬼はみな隠れてしまい大吉利を得る。その後、家は安泰、富貴は求めずして来る。

⑦もし従軍しても、官に仕えて興生し、よいことが得られる。家門が興り人は貴く、子孫が榮える。

⑧もし衆生が官吏や盜賊に捕まっても、この經を三回讀むと解決する。その他、受持、讀誦したり他人のために書寫すると、水や火に入っても溺れず燃えることはない。

⑨もし人に妄語、綺語、惡口、兩舌などの問題があつても受持、讀誦すれば解決する。

⑩父母に罪があり地獄に落ちることが決まっても、その子供がこの經を七回讀むと父母は地獄を離れて天上に生まれ、見佛聞法して成佛する。

⑪佛は無礙菩薩に告げる。毘婆尸佛の時、優婆塞、優婆夷がおり佛法を敬崇し、『八陽經』を書寫し受持讀誦して菩提道を成じ、普光如來應正等覺と名け、劫を

大漏といい、國を無邊といった。

⑫また無礙菩薩よ。『八陽經』は閻浮提に行なわれ、どこにも八菩薩と諸梵天王がおり（一四二三b）、この經を取り圍んでいる。

⑬佛は無礙菩薩に告げる。善男子、善女人が衆生のためにこの經を講説して深く實相に達すれば、その身心は、佛が身、法が心であることがわかる。眼は無盡の色を見るが、色は空、空は色である。すなわち眼は妙色身如來である。同様に、耳は妙音聲如來、鼻は香積如來、舌は法喜如來、身は智明如來、意は法明如來である。

⑭善男子よ、この六根が顯現するのを見るに、人はみな空しくこれを説く。もし善語を説けば善法が常に轉じ聖道を成ずる。邪語なら逆であり地獄に落ちる。人の身心は佛法の器、十二部の大經卷であり、大昔から讀んでも盡きない如來藏の經である。ただ〔それは〕心を識り性を見る者だけが知るものであり、聲聞や凡夫が知るものではない。

⑮その時、五百の天子が法眼淨を得て阿耨多羅三藐三菩提心を發した。

⑯無礙菩薩が佛に問う。人の生死には時間を選ばない。どうして殯葬の時には日を選ぶのか。(二四二三c)そして、それにもかかわらず貧乏の人が多いのはなぜか。
⑰佛が答える。天地は廣大にして清く、日月は廣明にして明るく、時年は善美であり異ならない。善男子よ。人王菩薩は衆生のために人の主となり、俗人のために曆を作つて配布した。愚かな人は文字を信用するのでその災いを受ける。また邪師により邪神を求めたり餓鬼を崇拜したりする。その人は死後に苦しみを味わう。

⑱善男子よ。子供を生む時、この經典を三回唱えれば簡単に生まれる。死ぬ時、この經を三回唱えれば、問題はなく福德を得る。殯葬の日にこの經を七回唱えれば、問題はなく福德を得る。また殯葬の場所について東西南北などの方角は關係ない。この經を三回唱えれば、問題はなく福德を得る。

⑲佛が前の内容を偈で説く。(二四二四a)

⑳その時、七萬七千人が阿耨多羅三藐三菩提心を發した。
㉑無礙菩薩が佛に問う。凡夫は結婚する時、占い師にみてもらい結婚の日取りなどを決めるのに、結婚してから富貴のまま老いる人は少なく、貧乏で死別する人が多いのはなぜか。

㉒佛が答える。天地、日月、火水、男女がそれぞれ陰陽を構成し、そうした天地の氣が合わさつて一切の萬物が生じる。これが天の常道、自然の理、世諦の法である。愚かな人は無知のため、邪師を信じて占いをするが、善を行わず惡業を造る。「それゆえ」命終の後に人身を得る者はわずかで、地獄、餓鬼に行く人はとても多い。また、人身を得たとしても正信修善の者はわずかで、惡業を造る者はとても多い。婚姻關係を結ぼうとする時、「五行説の」水火の相剋などを問うことをするな。ただ祿命書だけを見て福德の多少を知れ。そして呼び迎える日にこの經典を三回唱えることを禮とせよ。これにより幸福が訪れる。

②③この時、八菩薩がおり、佛の威神を承けて大總持を得、常に人間に處して和光同塵し破邪立正する。それは跋陀羅菩薩漏盡和など（一四二四b）の八菩薩である。そして八菩薩は佛に、自分たちが佛のもとで得た陀羅尼神呪を説いて、『八陽經』を讀誦する人を擁護することを誓う。そして「阿佉尼、尼佉尼、阿毘羅、曼隸、曼多隸、娑婆訶」という陀羅尼を説く。そして讀經法師を惱ませる人がいたら、自分たちはこの神呪を説いて、その人の頭を破るという。

②④無邊身菩薩が佛に八陽經と名ける理由を問う。

②⑤佛は次のように述べる。「八」とは分別、「陽」とは明解という意味である。それは大乘空無の理を「明解」して八識因緣空無所得を「分別」することである。續いて八識を説きながらそれを天、如來と結合させる。すなわち兩眼―光明天―日月光明世尊、兩耳―聲聞天―無量聲如來、兩鼻―佛香天―香積如來（一四二四c）、口―法味天―法喜如來、身―盧舍那天―盧舍那佛、盧舍那鏡像佛、盧舍那光明佛、意―無分別天―不動如來、

大光明佛、心―法界天―空王如來である。そして第七識である含藏識からは『阿含經』と『大般涅槃經』が出、第八識である阿賴耶識からは『智度論』と『瑜伽論』が出る。そして、佛は法、法は佛であり、合わせて一相とし、大通智勝如來を現ずる。

②⑥佛がこの經を説くと、大地は六種に振動するなどし、一切の罪人は苦を離れ、みな無上菩提心を發した。

②⑦その時に、八萬八千の菩薩は一時に成佛し、空王如來應正等覺と名づけ、劫を離苦とし、國を無邊と名づけた。一切の人民は（一四二五a）菩薩の六波羅蜜を行じて無所得の法を得、六萬六千の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷は大總持を得て不二法門に入った。また無數の天、龍、夜叉らは法眼淨を得て菩薩道を行じた。

②⑧善男子よ、官吏となつて登廳する日、あるいは新宅に入居する日にこの經を三回讀めば、大吉利で善神は加護し、壽命は延びる。

②⑨善男子よ、もしこの經を一度讀めば一切經を一度讀むことになり、もし一卷を書寫したら一切經を書寫し

たことになる。その功德ははかりしれない。

③〇無邊身菩薩よ、この經典を誹謗し、佛説でないと言う人がいたら、その人は現世で白癩病にかかり、惡瘡と膿血が體中に行きわたり、なまぐさい臭いがして他人に嫌われる。死後には阿鼻無間地獄に落ちてすさまじい苦しみを受ける。

③1佛が罪人のために偈を説く。

③2佛がこの經典を説き終わると、一切の衆生は未曾有を得た。

③3（一四二五a）菩薩聖衆、天神地祇はみな歡喜奉行した。

『八陽經』の内容は、基本的に『八陽經』讀誦のすすめである。様々な場での効果を説くが、中でも特徴的なのが、土地建物の關係と、葬祭日程、方角に關することである。つまり『八陽經』は土地や葬祭の日取りに關する俗信におびえる人たちに、それよりも『八陽經』讀誦が、効果があることを説いている。戦前の朝鮮學研究者・高

橋亨は、寺院勢力が、朝鮮の社會に大きな影響力を持つ風水地理説の唱える凶災を、佛教の修法と法力によって除き、吉祥を招くことができると強調したからであると述べている。^{③4}

また注目されるのは、天地の働きと對比させて俗信を否定することである。^{③2}では天の常道、自然の理、世諦の法を説き、それに對して占いを信じたり邪師を信じたりすることを批判する。これが興味深いのは、『八陽經』自體が讀誦の効果を説く、いわゆる俗信的なものなのにもかかわらず、他の世の中にある俗信を否定していることである。

（三）韓國の民間信仰における『八陽經』の位置づけ
具重會の研究によれば、韓國の民間信仰經典の種類は二六三種類にもものぼるとい^{③5}う。また『韓國民族文化大百科事典』の「巫經」では經典の性格、思想系統という二つの觀點から分類する。

第一に、經典のはたらきによる分類では、

①逐邪經。これは神を呼んで鬼を追い拂い、または捕まえるために讀誦される經文で、鬼を脅かし叱り、鬼を捕捉して處置する。

②家神奉安經。これは成造、祖先など家庭守護神を奉安する經文で、逐邪經の前後に讀まれる。

③祝願文。これは神將祝願文と家神祝願文に分けられる。前者は神將の威力を讃え、神將の活動を督勵する内容である。後者は家神である成造・祖先などに家庭の安樂を祈る。

第二に、思想系統による分類では、①道教系統、②佛教系統、③儒教系統、④佛教と道教の習合系統に分けられる。

この中、『八陽經』は、第一の經典の性格による分類では「逐邪經」に位置づけられ、第二の思想系統としては「佛教系」に分類される。^①「逐邪經」という分類について一言したいのは、『八陽經』そのものにこれが明確には説かれておらず、人々が『八陽經』に期待した効果である。例えば、有名な佛教經典の『般若心經』は、

様々な儀禮の場で唱えられ、人々はこれを唱えることにより様々なことを期待する。しかし『般若心經』自身は、般若の空思想と最後の眞言が中心の經典であり、汎用性のある經典であるとは述べていない。この經典自身の主張と人々の期待するものとのズレが、社會における經典の在り方を探るうえで重要なかぎとなると思われる。洋の東西を問わず、どの社會でも自分たちの暮らしに悪い影響を及ぼす惡靈的なものを、經典を唱えることにより追い出すということはあるであろう。その役割を、朝鮮においては『八陽經』が擔つたのである。ではそうした信仰の在り方をどこまで解明できるか。それを筆者は刊本の變遷により辿ることにした。そこで次に刊本の研究に入る。

三 朝鮮時代の『八陽經』刊本

〈表1〉は、一五四九年から一九〇八年までの朝鮮時代に刊行された『八陽經』のテキストについて、韓國の中央圖書館などの書誌データをもとに一八種類並べたも

のである。

〈表1〉

No	刊年	刊行寺院	刊行地	外題	経数	収録經典
1	一五四九	神興寺	慶南…晉州	天地八陽神呪經	15	八陽、太歳、地心、竈王、歡竈、安宅、百煞、金神、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護
2	一六〇九	松廣寺	全南…順天	佛說廣本太歳經	15	八陽、太歳、地心、竈王、歡竈、安宅、百煞、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護、牛馬
3	一六三五	龍藏寺	全北…泰仁	佛說廣本太歳經	16	太歳、地心、八陽、竈王、歡竈、安宅、百煞、金神、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護、牛馬
4	一六五七	天冠山	全南…長興	佛說廣本太歳經	16	太歳、地心、八陽、竈王、歡竈、安宅、百煞、金神、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護、牛馬
5	一六六六	桐華寺	慶北…樂安	佛說廣本太歳經	15	太歳、地心、八陽、竈王、歡竈、安宅、百煞、金神、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護
6	一六七〇	新興寺	江原…東草	佛說廣本太歳經	15	太歳、地心、八陽、竈王、歡竈、安宅、百煞、金神、龍王、敗目、度厄、五姓、塚堀、明堂、救護
7	一七三一	普賢寺	平北…寧邊	天地八陽神呪經序	2	八陽、太歳
8	一七三三	佛智庵	?	佛說天地八陽神呪經	* ^⑩	八陽、七星、請儀文ほか
9	一七六九	鳳停寺	慶北…安東	天地八陽神呪經	1	八陽
10	一七九一	松廣寺	全南…順天	八陽經	3	八陽、竈王、歡竈
11	一七九五	佛巖寺	京畿…楊州	八陽經	7	八陽、明堂、竈王、歡竈、安宅、父母、參禪

12	一七九六	佛巖寺	京畿…楊州	八陽經	7	八陽、歡竈、竈王、明堂、安宅、長壽、壽生
13	一七九七	佛巖寺	京畿…楊州	六經合部	7	八陽、竈王、歡竈、安宅、明堂、壽生、十二
14	一八〇七	熊津寺	慶南…昌原	天地八陽經	?	?
15	一八五六	奉恩寺	仁川…江華	八陽經 (*底本は佛巖寺本)	4	八陽、竈王、歡竈、安宅、明堂
16	一八六一	碩川寺	慶北…清道	佛說天地八陽神呪經	?	?
17	一八八一	佛巖寺	京畿…楊州	八陽經	1	八陽
18	一九〇八	*姜在喜	?	天地八陽神呪經 (*底本は佛巖寺本)	3	八陽、參禪曲、勸禪曲

*收録經典略號

八陽 天地八陽神呪經、太歲 佛說廣本太歲經、地心 佛說地心陀羅尼經、竈王 佛說竈王經、歡竈 佛說歡喜竈王經、安宅 佛說安宅神呪經、百煞 佛說百煞神呪經、金神 佛說金神七斂經、龍王 佛說龍王三昧經、敗目 佛說敗目神呪經、度厄 佛說度厄經、五姓 佛說五姓反支經、揅掘 佛說揅掘經、明堂 佛說明堂神經、救護 佛說救護身命經、牛馬 佛說牛馬長生經、三災 佛說三災消滅經、壽生 佛說壽生經抄、十二 佛說十二摩訶般若波羅蜜多經、父母 父母恩重經、長壽 長壽滅罪護諸童子陀羅尼經、參禪 參禪曲、勸禪 勸禪曲、

この表からわかることは、No. 1からNo. 6、すなわち一六世紀から一七世紀にかけては、一五、一六種類の經典を一括して刊行していることである。No. 1神興寺本は、外題が「天地八陽神呪經」で、内容が『天地八陽神呪經』から『牛馬經』までの一五の經典である。一方、

No. 3龍藏寺本の場合、外題が「佛說廣本太歲經」、内容が『佛說廣本太歲經』から『牛馬經』までの一五の經典である。このように複數經典のまとまりの場合、先頭に置かれた經典名が、典籍全體の題名となっているのである。このことから『太歲經』の中に『太歲經』や『八陽

經』があるのではない。

これに對して No. 7 以降すなわち一八世紀になると一括刊行がなくなり、單獨あるいは複數でも少數の經典の先頭として位置づけられるようになった。筆者は、『八陽經』が重視されてきたことの反映と考える。ここで増尾の先行研究の問題點を指摘する。

増尾は朝鮮の『八陽經』の刊行形態として、①單獨での刊行、②『佛說廣本太歲經』への插入、③『六經合部』への插入という三つの類型を示す。⁽¹⁾この中、①については問題がないが、②③は再考の必要がある。②『佛說廣本太歲經』への插入では、増尾は No. 3 龍藏寺本を挙げ、この外題が『佛說廣本太歲經』となっていることから、『八陽經』が『佛說廣本太歲經』に收録されているという。しかし、これは前に見たように、複數經典の場合には、先頭に來る經典が全體の題名になっているだけである。

續いて③『六經合部』への插入である。増尾は、經典集成である『六經合部』に本經が收録され、『六經合部』

の書名が一五世紀に見えることから、『八陽經』もその直前の王朝である高麗時代に、かなり流通していたと述べているが、これは誤解に基づく推論である。氏がいう『六經合部』とは No. 13 佛巖寺本（一七九七年）のことを指し、確かに『六經合部』という表題の中に『八陽經』が含まれている。しかし一般に朝鮮時代の『六經合部』といえば、『金剛般若經』など六つの經典を一冊にしたものを指すのであり、増尾が言う『八陽經』が入った『六經合部』という言い方は例外である。この違いに氣づかず、増尾は『八陽經』が入った『六經合部』と『金剛經』などが收録される『六經合部』を同一視し、後者が一五世紀初めに刊行されていたことから本經の刊行もその時期に遡ると考えたのである。⁽¹⁾

このように『八陽經』は重視されたのであるが、その理由は『八陽經』の讀誦による功德・靈的機能が認められたことによるものである。續いて朝鮮時代から現代にかけて、『八陽經』の靈的機能がどのように認められたかを見ていく。

四 『八陽經』の靈的機能

靈的機能とは靈驗と同じ意味の言葉であり、文字通り經典がどのような靈的¹⁾不思議な力を持つかということである。前述したように、それは往々にして經典の内容以上のものがあり、そこに社會の中での經典の受容の姿、社會が經典に期待したものが現れる。ここでは4つの例を挙げる。

(一) 朝鮮にのみ見られる序文

序文は一般に經典の内容を要約し、そのすばらしさを讃えるためのものである。朝鮮刊本の『八陽經』にも序文が附いているが、これは朝鮮にだけ見られる。筆者はこれが朝鮮で制作されたものであり、朝鮮の人々が『八陽經』に期待したものが書いてあると考える。

内容は對句を用いながら本經の力を強調している。ここでは現代語譯を示し原文は注記した。⁽¹⁾なお理解の便宜をはかるため、分科のための記號を附けた。「」は現

代語譯に際しての補いである。

佛說天地八陽神呪經とは、(A1) 日月星宿は明らかに四節(春夏秋冬)を示し、(A2) 八部神將は威嚴を持ち「木、火、土、金、水の」五行と「衛敎の護法神である」六甲に顯われる。(B1) 「日月星宿の屬性である」明明は虛空にかがやき、「それにより」一切の鬼魅は界外に完全に消滅する。(B2) 「八部神將の屬性である」嚴嚴は五方(中央と東・西・南・北)に列敷し、「それにより」惡賊怨敵は永く家裡に息む。

(C1) それゆえ「『八陽經』に問者として登場する」無礙菩薩は、有爲の法を興そうとして長短の諸事を述べると、「それに對して」佛は解脱方便をもつて答えた。(C2) 一方、「もう一人の問者である」無邊身菩薩は、疑悔の心を除こうとして「佛に」經卷の勝れた利益を請うと、佛は讚毀罪福をもつて説いた。

(D1) さらに、「この經典を」敬信する人は、諸惡過難を解脱し、腫物を消滅させる。(D2)「この經典を」受持する人は、永く邪鬼や横神^(U)を離れ、富貴になる。

(E1) それゆえ「この經典は」役人から捕まえられたり、父母の三途の苦しみを遠ざける般若の利刀であり、(E2) 殯葬の日時と出産が簡単に速やかに行われる無礙の仙藥なのである。

(F1) この經典を読み、その後結婚すれば、もし「占いで」姓氏が合わなくとも男女は百歳まで生き、仲睦まじいことは長く続く。(F2)「この經典を」禮拜すれば、その後、墓を造成するときに「占いによる」方角と土地などを問わず、この世の福はきつと吉祥になり、家は富み人は繁榮する。

(G1) いまこの經典は、天地の諸王が歸敬するものであり、(G2) 家を護る神王が仰ぎ信じるものである。(H1) それゆえに八大菩薩は經卷を頭に載せて讀經の法師を護衛し、(H2) 見執の邪神^(S)は

神呪を宣暢して穢身や惡心を摧き伏せる。

(I1) それゆえこの經典により、その教えの通りに行えば、悪い方角や人を害する土地などは存在せず、(I2) 三回讀誦し、七回讀誦したときには、凶日、禍時は永遠に存在しない。

(J1) その後に土地を動かしたり垣を築いたりしても邪神は住まず、(J2) 古い家を捨てて新しい建物を建てても惡鬼は寄つて來ない。(K1)「八卦忌で悪いとされる方向である」禍害に退いたり、絶命に進んでもすべて吉徳である。(K2)「陰陽家で説く八將軍の一つで、木星をつかさどり、悪い方角を示す」太歳を犯したとしても、「土星を司り、乗船、轉居などを忌むとされる」歲破に執したとしても害を被ることはない。

(L1) 天地は廣大であり「それは」勝れた業の結果であり、(L2) 八方は廣々としており、「それは」みなすぐれた福によりなしとげられたところである。ゆえに佛説天地八陽神呪經というのである。

最初の(A1)日月星宿と(A2)八部神將は、この文章の根本原理を示す。續いてそれぞれの性質を(B1)明明、(B2)嚴嚴という言葉で表し、それらが邪惡なものを對治すると述べる。この中、日月星宿とは經典にあつた天地の理とされる自然の攝理である。それに對して八部神將は、これを『八陽經』守護の八部衆と考えれば本文に出るものであるが、(A2)の五行、六甲に關連する活動はしていない。これは佛教的に見せた神將信仰、すなわち五方神將と呼ばれ、東西南北中央の五方を守護するものではないか。このように考えると、(B2)に出る「五方」とも通ずると思われる。

これ以後はほぼ經典の内容の要約である。ここで注目すべきは八部神將のはたらきであり、これが後に逐鬼經とみなされる要因と考えられる。

(二)「八陽經密傳」

續いて「八陽經密傳」を取り上げる。これは朝鮮で刊行された『八陽經』の中、一七九一年刊行の松廣寺本

(表1 No.10)にだけ附されたものである。筆者はこれが、いわば『八陽經』ブームが起きた中で、作られたものと考えている。ここでは土地建物關係と葬祭日程關係は説かれず、別の機能を強調する。以下、内容を現代語譯して示し、原文は注記した^⑩。なお理解の便宜をはかるため、分科のための記號を附けた。

天地八陽經密傳

(A) 新羅國の三朝法師が唐國に入り、西天國、大聖國の義淨三藏の教文を傳えた。

(B1) 大聖國の大富長者は二十歳の時にこの法を附され、『八陽經』と『般若心經』とをそれぞれ三萬卷讀み、四百年を過ごし、壽命が盡きたら兜利天に生れた。生前には富一萬三千石を持っていた。

(B2) 唐國の鹽和尚はこの法を附され、『八陽經』を十萬卷讀み、佛の眞身に見えて八位^⑪を得た。

(B3) 唐國の則員相公は述べた。「私は生前、この法を附され、『八陽經』を三十萬卷讀むと、たちまち神通力を得て天上を往來し、大藏經に通じた。衆

神はますます「私を」奉り、明らかに三世を知った」と。

(B4) 西天國の眞表王は、二十八歳で寶位に居り、この法を附され、『八陽經』百萬卷を讀むと、寶位に三百年いた。壽命が盡きたら大梵天王として生れた。

(B5) 唐の登州の金顔の娘は十八歳でこの法を附され、『八陽經』、『般若心經』を三年のうちにそれぞれ一萬卷讀んだ。世に在ること一百二年で、穀食を四十萬石たくわえた。

(C) 義淨三藏和尚は文殊菩薩の化名である。

内容を検討する。(A)では本經の朝鮮半島への傳來を記す。入唐した本經を傳えた僧侶を新羅國の三朝法師とするが、これが誰を指すのかはわからない。通常、三朝法師といえは三人の皇帝に仕えた僧侶を指すが、ここでは誰かは不明である。そして西天國、大聖國の義淨三藏の教文を傳えたとあるが、これでは義淨が西天國、大聖

國の出身ということになろう。

(B)では、大聖國の大富長者、唐國の鹽和尚、唐國の則貝相公、西天國の眞表王、唐の登州の金顔の娘という五名の靈驗が傳えられる。内容はいずれも本經を讀誦したことにより利益を得たという内容である。この五名の身分は、それぞれ(B1)居士、(B2)僧侶、(B3)貴族?(公とあることから)、(B4)王、(B5)女性であり、多様な人々に本經の利益があることを説いている。ちなみに(B5)唐の登州の金顔の娘という設定は新羅を意識したものであろう。新羅時代、山東半島の登州には新羅人の町があり、赤山法花院では新羅式で儀禮が行われていたことは圓仁の『入唐求法巡禮行記』に記されている。さらに娘の姓が金ということから彼女が新羅人であることが推測される。

そして彼らが得る利益としては、長壽、死後のすばらしいところへの轉生、現世での富、のほか、僧侶ならば佛に見えること、王ならば在位の長いことなどが説かれる。この靈驗譚がどのような経緯で、誰が製作したのかは

わからない。ただ、本經の受容が盛んになる中で本經の呪力を強調したいと考えた僧侶が製作したものと考えられる。これは前の序文と並び、朝鮮において『八陽經』の聖典化が促進された例と考えられる。

(三) 口傳神話における『八陽經』

朝鮮時代の代表的な口傳神話に「バリ公主神話」がある。これは王の娘として生まれたバリ姫が、親に捨てられ流浪するも最後には親元に歸る話であるが、この中に『八陽經』が登場する。

捨てられたバリ姫が入っている箱を見つけた釋迦世尊が、老夫婦に子供を養育することを勧める。箱の蓋が閉まっていたが、「父母への孝行の經と子孫への愛情の經」と『金剛經』、『法華經』、『天地八陽經』を全部唱えると、閉まっていた蓋が開いたという。⁽²²⁾ この中、「父母への孝行の經と子孫への愛情の經」とは朝鮮で流行した『父母恩重經』と考えられる。すなわち、箱を開けるための經典は、『金剛經』、『法華經』という正統な佛教經典と、

『父母恩重經』、『天地八陽經』という中國成立經典から組み合わさっているところが興味深い。

(四) 近現代

ア、邪鬼の驅逐

これは『八陽經』の讀經の力により鬼神を退治する話である。次に紹介する話は安星萬という人の證言である。正確な時代はわからないが、日本統治時代のことと思われる。

ある女性が子供を生むために占い師に見てもらった、その女性には幽霊が憑いており一大事だということ、で、『天地八陽經』により幽霊を追い出すことになった。女性が讀經する人をお願いして幽霊を追出すための方法を使った。讀經する三人の人が瓶の蓋を開けておき、『天地八陽經』を讀みながら幽霊に瓶の中に入れろのである。幽霊の眼には經を讀む三人が、家を建てる大工に見え、瓶はすてきな

家に見えるということであった。そこで繼續して讀經を行いながら幽靈に、「その素敵な家に入つて見學してみろ」と誘うと、結局、幽靈が瓶の中に入り、その瞬間、人々が瓶の入口を押さえ、悪いものはここに収めた。幽靈を退治したという内容の話である⁽²³⁾。

すなわち『八陽經』の力により、女の人に取り附いてゐる幽靈が錯覺を起こし、女の人から離れるという内容である。ここで出てくる讀經をする人は盲僧かもしれない。『韓國民俗文化大事典』にも「死者が影響を與えて病氣を起こしている場合、『八陽經』を讀む⁽²⁴⁾」という記述がある。また『佛教寶鑑』には『八陽經』の効果として、「患者から病魔を追い出す」ことが説かれている⁽²⁵⁾。ここで『八陽經』に認められた靈的機能は、邪鬼の退散の力ということであろう。經典そのものには邪鬼を退散することは説くが人に憑依した靈を祓うことは説かれていない。『八陽經』の信仰が高まるにつれて、エクソシストのような靈的機能が附加されたものと考えられる。そし

て前に見たような逐鬼經としての役割が確立したものと考えられる。

イ、追善供養

これは一九二七年に刊行された韓國近代の佛教雜誌『佛教』に掲載された話である⁽²⁶⁾。李鍾震という僧侶が、慶尙南道の蔚山に住む李奎鉉に呼ばれた。話を聞いてみると、數年前に亡くなった奎鉉の息子の根洪が、あの世から親に對して、自分のために『八陽經』を讀んでほしいと願つたという話である。そして、それを奎鉉に傳えたのは、一度死んで生き返つた青年である。

ここには幽靈などは出て來ないが、『八陽經』を讀誦することにより、その力が死後の世界に影響を與えるという。重要なのは話の眞偽ではなく、この人たちが『八陽經』にそのような力があると信じていることである。この機能も、幽靈退治と同様、『八陽經』の信仰が高まるにつれて附加された靈的機能と考えられる。

ウ、現代の靈驗話

最後に紹介する話は、天地八陽神呪經會という『八陽經』を信奉する團體が紹介する靈驗談である。要約すると次のようになる。記載がないので正確な時代はわからないが現代のものと見てよいと思われる。

城北區に住むキム・デドク氏の長男が、大學入試を翌日に控える中、飼い犬の「チョロン」が交通事故で大けがをして家に入ってきた。突然のできごとで家中が驚いた。大學入試を翌日に控えて不吉な豫感がした。チョロンはうめきながら死ぬ寸前の姿だった。長男の試験が心配になったキム・デドク氏は『天地八陽神呪經』を熱心に七回讀誦した。

翌日になると、死ぬかと思っていた子犬は「いつ交通事故が起きたのか」というように、元氣な姿で飼い主を見つめていた。家族全員喜んだ。そして長男も志望大學に難なく合格した。キム・デドク氏は今も『天地八陽神呪經』を朝夕熱心に讀誦しており、

廣く普及している。⁽²⁷⁾

この話で注目されるのは、靈驗の効果が邪鬼の驅逐や追善供養といった話ではなく、結末が息子の大學入試の合格である。ここから靈驗も時代に應じて變化していくことがわかる。現代においてはあの世の話は説得力を持たない。それよりも現代人が求めるものに効果を出していくところに民間信仰經典の生命力があるのだと思う。

五 結語

本稿では、朝鮮時代から現在までの『天地八陽神呪經』の位相を検討した。結論は次の2つである。

第一に朝鮮時代の刊行状況を整理した。その結果、一六、一七世紀には多數の經典群と一緒に刊行されるが、一八世紀以降は『八陽經』單獨あるいは『八陽經』を中心とした少數の經典群の例が増えた。これは時代の變化とともに『八陽經』が重視されてきたことを反映するものと考えた。

第二に『八陽經』の靈的效果について考察を加えた。

『八陽經』は經典を讀誦することにより、家屋、方角などの問題が解決することを説いた。これに對して朝鮮で附加されたと考えられる「序文」では八部神將の働きを強調し、さらに「八陽經密傳」では、現世の富貴と來世の良いところへの往生が説かれるなど『八陽經』の効果を強調する文が創作されていく。近代では幽靈の驅除や死後の追善供養の効果も有するようになった。そして現代では事故に遭った夫の治癒とともに息子の大學合格の効果が靈驗として語られるようになる。時代の變化にもなう人々の願望の變化が經典の靈的效果に反映すると考えられた。

最後に研究の展望を簡単に述べる。例えば、お祓いや祈禱などを通して土地を靈的に清めるということがある。別にこれをやったからといって本當に清まるかどうかはわからない。しかし、人間の心としてやったほうが安心を得られるということはあるであらう。このはたらきを、日本では一般に神道の地鎮祭で行うのに對して、韓國で

は『八陽經』が行ってきた。これと同様に、人間社會の中における靈的問題の解決を、國や文化が違ふところのようにより、宗教文化の同異を探ることができるといふ。そしてその觀點から再び『八陽經』を見てみると、違つたものが見えてくるかもしれない。

註

(1) 木村清孝によれば『八陽經』の成立を七二〇年から七六〇年の間とする。木村清孝「僞經『八陽經』の成立と變容」(『東方學會創立五十周年記念東方學論集』、一九九七)。

(2) 『八陽經』に關する書籍やCDが刊行されるほか、YouTubeで韓國僧侶の『八陽經』讀經を聞くことができる。二〇二二年三月現在で、一〇種類以上の『八陽經』讀經の動画があることを確認した。

(3) 増尾伸一郎「朝鮮本『天地八陽神呪經』とその流傳」(『東京成徳大學研究紀要』四、一九九七)、同「朝鮮における道佛二教と巫俗の交渉」(『東京成徳大學研究紀要』五、一九九八)。後に『道教と中國撰述佛典』(汲古書院、二〇一七)に收録。

- (4) 佐藤厚「朝鮮における偽經『天地八陽神呪經』の流通と特徴」(『東アジア佛教研究論集』八、二〇二〇) 同「朝鮮における『天地八陽神呪經』の靈的機能」(『東洋學研究』五七、二〇二〇)。
- (5) 小田壽典『佛說天地八陽神呪經一卷 トルコ語譯の研究』(法藏館、二〇一〇) 四六―四七頁。
- (6) 小田前掲書、五四頁。
- (7) 高橋亨「朝鮮墳墓の齋宮と天地八陽經」(『宗教研究』新八一、一九三一)。
- (8) 具重會『韓國の巫經…經本文化の歴史』(民俗苑、二〇〇九) 『구중회』 정적 문화와 역사…한국의 巫經 상세 보기 (민속원、二〇〇九)。これは①朴海寬『宗里經冊』(二八〇〇年後期)、②赤松智城・秋葉隆『朝鮮巫俗の研究』(一九三七年)、③金赫濟『消災吉祥佛經寶鑑』(一九六五年)、④金榮振『忠清道巫歌』(一九七六年)、⑤李圭昌『全羅民俗論攷』(一九九四年) に收録された經典を集成・整理したものである。
- (9) 「巫經」『韓國民族文化大百科』(韓國學中央研究院、一九九七)〔一〕
- (10) 正確な經典數はわからない。
- (11) 増尾伸一郎「朝鮮本『天地八陽神呪經』とその流傳」(二〇一七) 一九四頁。
- (12) 増尾伸一郎「朝鮮本『天地八陽神呪經』とその流傳」
- (13) (二〇一七) 一八五頁。
- ①『金剛般若經』、②『華嚴經普賢行願品』、③『首楞嚴神呪』、④『阿彌陀經』、⑤『觀世音菩薩禮文』、⑥『觀音經(法華經普門品)』
- (14) 宋日基、金ユリ「『六經合部』の板本研究」(『書誌學研究』五二、二〇一一) (송일기, 김유리 「『六經合部』의 板本研究」(『서지학연구』52、二〇一一))。
- (15) ちなみに佛巖寺では一七九六年に「佛說大報父母恩重經」、「佛說長壽滅罪護諸童子陀羅尼經」、「佛說壽生經抄」を合綴して『三經合部』と呼んでいる。また「八陽經」と「佛說廣大歲經」を合綴して「八陽合部」と呼ぶ本(刊行年未詳、國立中央圖書館所藏)もある。また、『金剛經』などが收録される『六經合部』のうち『金剛經』、『華嚴經普賢行願品』、『阿彌陀經』の三つの經典だけを合綴して『三經合部』と呼ぶ例もある。(黃海道…慈悲嶺寺、一四五九年)
- (16) 「佛說天地八陽神呪經者、(A1) 夫日月星宿、明明示於四節、(A2) 八部神將、嚴嚴顯於五行六甲。(B1) 明明、朗曜於虛空、一切鬼魅、殄滅於界外、(B2) 嚴嚴、列敷於五方、惡賊怨敵、永息於家裡。(C1) 是故無礙菩薩、欲興有爲法、啓於長短諸事、佛以解脫方便答、(C2) 無邊身菩薩、慾除疑悔心、請於經卷勝益、佛以讚毀罪福說。(D1) 加又、敬信人、解脫諸惡過難、

消滅瘡腫、(D2) 受持者、永離邪鬼橫神、致容富貴。

(E1) 是故、欲令遠離懸官之繫執、父母三途苦、般若利刀、(E2) 欲令獲得殯葬之日時、產生易速事、無礙仙藥。(F1) 讀此經、然後、交會婚媾、不和姓氏、男女當百歲、和穆長遠、(F2) 作禮拜、己竟、成造墓田、不問方地、世福定吉祥、家富人興。(G1) 今此經者、斯乃天地諸聖、所歸敬、(G2) 護家神王、所仰信也。

(H1) 是故、八大菩薩、頂戴於經卷、衛護讀經法師、(H2) 見執邪神、宣暢於神呪、摧伏穢身惡心。(I1)

是故依於此經、如法之後、無有惡方害地、(I2) 周於三卷、七徧之次、永無凶日禍時。(J1) 然後、動土築垣、而邪神不住、(J2) 捨古建新、而惡鬼不至。(K1) 退於禍害、進於絕命、無不吉德。(K2) 犯於大歲、執於歲破、不能損害。(L1) 天地蕩蕩、竝勝業所感、(L2) 八方曠曠、皆殊福所致。曰佛說天地八陽神呪經。」

〔八陽經〕朝鮮刊本)

(17) 不明。

(18) 不明。

(19) 「天地八陽經密傳」「天地八陽經密傳、(A) 新羅國三

朝法師、入唐國、傳得西天國大聖國義淨三藏教文。(B) 1) 大聖國大富長者、年二十、附此法、讀八陽經、般若心經各三萬卷、居四百年、命終後、生兜利天、在世、有富一萬三千石。(B2) 唐國鹽和尚、附此法、讀八陽十

萬卷、見佛真身、得八位。(B3) 唐國則貝相公言、我生前、附此法、讀八陽經三十萬卷、即得神通、往來天上、無礙大藏、衆神倍奉、明知三世。(B4) 西天國眞表王、時年二十八、居寶位、附此法讀八陽經百萬卷、居寶位三百年、終身後、生大梵天王。(B5) 唐登州金顏娘、年十八、附此法、讀八陽經、般若心經、三年內、各讀一萬卷、在世一百二年、儲合穀食四十萬石。(C) 義淨三藏和尚、文殊菩薩化名。」テキストは松廣寺刊本である。

(20) 不明。

(21) 原文は「衆神倍奉」。意味が取りにくい、暫定的にこのように解釋した。

(22) 金香淑『朝鮮の口傳神話——「バリ公主神話」集』(和泉書院、一九九八) 五三頁。

(23) ハン・ミオク『安星萬一九二八年一〇月一二日生まれ』(二〇世紀民衆生活史研究團、ヌンピツ、二〇〇五年)

〔안성만 「구술」·한미옥 「편」〕안성만…1928년 10월 12일생 (눈빛、二〇〇五) 二三三頁。

(24) 『韓國民俗文化大事典』上卷、五〇四頁。

(25) 『佛教寶鑑』(一九六六年刊行)。

(26) 李鍾震『「八陽經」を讀んでくれと(不思議)』(『佛教』五九號(佛教社、一九二七年)「이종진 「팔양경을 읽어달라고(불사의)」(『불교』五九、一九二七) 五五

頁一五七頁。

(27) チョンチョンスニム『天地八陽神呪經』(天地八陽神呪經會、一九九七年)。

日本道教學會第七十四回大會豫告

一、日時 二〇二三年(令和五年)十一月十一日(土)

一、會場 關西學院大學西宮上ヶ原キャンパス

一、行事 研究發表會・總會・懇親會

合同役員會は大會前日の十日(金)に行う豫定です。

連絡先 〒662-8501 兵庫縣西宮市上ヶ原一番町1番155號

關西學院大學文學部 水越知研究室

TEL 〇七九八―五四―六七五一

e-mail trizukos@kwansei.ac.jp

研究發表者公募

左記の要領で、第七十四回大會における研究發表の希望者を公募します。ふるってご應募ください、なお、發表者の決定などにつきましては、本學會理事會に一任させていただき、七月下旬までにその旨をご通知します。

一、發表時間は二十分程度のものであること。

二、發表題目及び日本語千二百字以内の發表要旨を添附すること。

三、二〇二三年(令和五年)六月末までに學會事務局宛に文書及びメール應募すること。

Phases of the *Tian di ba yang shen zhou jing* (天地八陽神呪經)
in Korea:

From the Chosŏn Dynasty to the Present

SATŌ Atsushi

In this paper, I examined phases of the *Tian di ba yang shen zhou jing* from the Chosŏn Dynasty to the present. I reached two conclusions.

The first was about its publication situation during the Chosŏn Dynasty. It was published as part of fifteen or sixteen sutra groups in the sixteenth and seventeenth centuries, but from the eighteenth century onward, it was increasingly published alone. I hold that this reflects the emphasis placed on the sutra after the eighteenth century.

The second conclusion was about the sutra's miraculous efficacy. The sutra teaches that one can solve problems related to houses, directions, and so on by reciting it. The "Preface," which appears to have been added in Korea, emphasizes the work of the eight divine generals. Also, in "The Secret Tradition of Ba yang jing" sentences would be created that emphasize the efficacy of the sutra with regard to wealth/nobility in this life and better rebirth in the next life. In modern times, it also came to be looked to for exterminating ghosts and memorializing the dead. And today, people speak of its miraculous efficacy when applying to universities. In this way, I found that the changes in people's aspirations that accompany different eras are reflected in the miraculous effects the sutra is understood to possess.